

にいがた

生涯学習ネットワーク

第4号

2017.1.31

この情報紙では、県内各地の社会教育活動を紹介していきます。

編集・発行：新潟県生涯学習協会 調査・広報委員会

*「にいがた社会教育」から数えて444号になります。

〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107号

TEL・FAX：025-266-1120

E-mail：syakyo56@feel.ocn.ne.jp HP：http://www.niigata-lla.com/

にいがた 学びを楽しみ、学びを生かす みんなで体験 生涯学習県民フォーラム2016 開催！



昨年の10月28日(金)～29日(土)に新潟県と実行委員会主催の「にいがた生涯学習県民フォーラム2016」が開催されました。会場の新潟県立生涯学習推進センターは来場者の熱気で盛り上がりました。

本フォーラムは生涯学習の普及・啓発をねらいとし、その一層の振興を図ることを目的として開催しています。初日は、列ができる程お集まりいただいた辻井いつ子さんの講演会に始まり、2日目はホールで「たみさんと遊ぼう」「おひざにだっこの講演会」「暮らしと防災」「春駒（佐渡伝統芸能）」「公民館活動発表会」等の開催。屋外では大人気の地震体験車。屋内では紙芝居、絵本の読み聞かせ、オセロ、将棋、折り紙、凧、ボードゲーム、けん玉、積み木、など終日、賑わいを見せました。また今年から新たに県立新潟商業高校・新発田商業高校や県婦人連盟、ガールスカウトの成果品展示・販売もあり、新潟こども医療専門学校の手作りおもちゃコーナーと共に、若い世代の参画は活気を生み出しました。子どもから高齢者までがかかわるスタッフ活動、多くの団体の活動成果を発表・還元する取り組みに加えて、各世代にわたる来場者は、人と人がつながり元気になるという生涯学習活動の姿を現すことができました。

なお、新潟県生涯学習協会は実行委員会のメンバーとして関わりました。



生涯学習聞き歩き

県内各地域の取り組みを紹介するこのコーナー。

第2回は新発田市文化団体連合会の会長 臼井茂夫さん、役員の藤田チヨ子さん、大沼修さん、井上隆さんに新しい取り組みについて語っていただきました。取材にあたっては新発田市生涯学習センター所長の井浦智明様からもご協力をいただきました。



人口99,700人余の新発田市は「文化香る街」です。その源は新発田藩の歴代藩主が領民に文化を奨励したことにあり、地域の文化活動が脈々と受け継がれてきています。

新発田市文化団体連合会の責務と使命は、先輩たちがつないできた新発田の文化を未来に橋渡しをしていくことと考えています。そのためには、少子高齢化などの要因で文化が廃れていく時代に何らかの手を打ち、この役割を果たすことが重要です。対応策として、的を絞った明確な“ポリシー”を掲げた活動への転換を図っています。

具体的には、「失われている伝統文化の掘起こしと継続」を当会の活動の大きな柱に据えました。市内の学校や公共施設等を中心に優れた作品が多くありますが、現状のままでは散逸の恐れが大きいという危機感があります。忘れ去られそうな“文化財”を発掘し、優れた“人”を顕彰するため「文化・人物研究会」を立ち上げました。その成果として、市民研究家や大学生・行政など人と人がつながり、当市に縁がある画家の作品が数多く見つかり、他部門も併

第2回 新発田市

団体の活動には
“ポリシー”
が必要だ！

せて計6回の
「アートコレク

ション展」を開催でき、子どもたちを含む市民の皆さんへ発信することができました。このように行政が直接かわるより、当会が支援する方が動きやすい取り組みに方向性を定めています。

この他にも、新しい新発田市立図書館がオープンし、旧図書館は市立歴史図書館になったことをきっかけに歴史図書館と連携して、新たに市内の収藏品・作品の調査研究(発見・管理・収蔵)にも取り組むことにしました。将来的には一般市民の所蔵する作品も含めた収藏品・作品のデータベース化を行い、市のホームページで全国に発信したいと夢は広がります。

新発田市文化団体連合会の設立は昭和46年に協議会として設立。昭和53年に現在の名称になり、多くの文化団体のまとめ役、行政と団体の橋渡し役を担ってきました。現在は96団体、2,200人が加盟しています。今回、団体運営の厳しさに直面し、従来型(活動のまとめや講演会の開催等)の活動から、行政と連携し共に汗を流していく地域貢献活動へと転換を行いました。今後は思いをもった若者や大学生たちも加わって、みんなで知恵を出し合って一緒に元気で活動していきたいと思っています。これからも、人が育つ力の弱体化、後継者が育たないという現代的課題を少しでも解決するため、学校教育や社会教育とより一層連携を深めていきます。

最後に臼井茂夫会長さんが「他人のためにやることが自分のためになる、文化活動をまちづくり、子どもたちのために役立つようにしていく、それが幸せである」と話されました。

 麒麟山酒造

 新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies

 菊水
www.kikusui-sake.com

 Minatoku 株式会社 皆徳
本社／新潟県新発田市豊町4-5-33 TEL.0254-22-2998(代) FAX.0254-22-5175

 共立印刷株式会社
〒950-0971 新潟県中央区近江2丁目16番15号
TEL.025(285)2711(代) FAX.025(283)9386

 コリ

みえる・つながる・
つくりだす

地域活動キラリ★

映画館の再生が「まち」と「ひと」をつなぐ

NPO法人街なか映画館再生委員会

上越市にある「高田世界館」は明治44年(1911年)築の今年で106歳になる映画館で、現存する映画館としては日本最古と言われています。元々は芝居小屋として建てられた当館は、2階席や特徴的な天井の装飾など、建築当時の時代が伺えるような趣がそのまま残っていて、2011年には国の登録有形文化財の指定を受けました。

ですが昔からその価値が認められていたわけではなく、かつては成人映画館として存在していたために地域コミュニティから遠ざけられていました。そうしたネガティブなイメージを払拭し「地域遺産」としての貴重さを認知してもらうべく、現在も地道な魅力発信を続けています。

その一環として映画上映だけでなく、小学生の見

学や中学生の職場体験の受け入れなど、一度断絶した地域とのつながりを再び築くような活動もしております。また映画の題材に合わせて地域に根ざしたイベントを組み込むなど、常に地域の商店や団体とコラボする機会を探しています。

映画を上映することで人とつながる。映画館が盛り上がることで街が活気づく。そうした循環を産むような拠点を目指しています。

(高田世界館支配人 上野 迪音)



郷土の味を伝え・残す

～特産品「いももち」が地域の元気づくり～
佐渡市 小木特産品開発センター(NPO法人佐渡活性化支援機構)



「いももち」製造

サツマイモを加工した「いももち」は冬の保存食として佐渡・小木地区のみで昔から作られていました。冬の寒の時期が製造期間で、サツマイモの甘味が出る自然食品です。

この伝統食品を佐渡の特産物にしようと地元のオバちゃん(平均年齢77歳)を中心にNPO法人を立ち上げました。昔から野菜作りの篤農家ばかりです。無農薬のサツマイモの栽培協定を結び、製造方法も試行錯誤しながら、安心・安全な自然食品づくりをモットーに特産品化を目指しています。冷凍技術導入により年間製造・販売が可能となり、口コミにより評判が広がり生産の6割は島外で販売されるようになりました。



いももち (200g/パック)

(購入方法: 電話かFAX 0259-86-2587)

～郷土の味「えご」を伝え守る～

越後えご保存会(長岡市)



茶話会風景

「えご」は能登半島など日本海沿岸で採れる「えご草」を原料にした海藻の加工食品です。新潟、長野では「えご」「いご」、佐渡では「えごねり」「いごねり」、京都では「うご」、山口、博多では「おきゅうと」と呼ばれています。

私たちは新潟県で冠婚葬祭やお祭りなど特別な日に食べられてきた郷土料理「えご」の食文化を守りたいと長岡市を中心に活動しています。主な活動は「手づくりえご教室」の開催、毎月1回の茶話会、えごだよりの発行、普及活動(イベントの開催、参加)などです。

“えご草”と“水”だけで作れる「えご」を手作りしてみませんか。ミネラル、食物繊維たっぷりの「えご」を一緒に楽しみましょう。

現在の会員数は約120人。

連絡先: 事務局(株)猪貝 TEL 0258-46-6888



えご作り教室

ひと・人・ひと



糸魚川市 横澤富士子さん

皆さんは、自分のことを大切にしてくださる人が近くにありますか？

糸魚川市では日本一の子どもを育てる取り組みが、平成22年から始まっています。

子どもが安心安全の環境の中で、自分が大切にされている感覚をもっていると、どんな困難があっても、乗り越える力があると私は感じます。

お笑い芸人になった娘の横澤夏子は、糸魚川の大自然の中で海や川、山、畑、田んぼのお手伝いで強くたくましく成長したと思います。

子どもが、大好きな人から愛された体験があれば、自分を大切にすることができる子どもに育つと思います。子どもが夢を叶えるために家庭の力、学校の力、地域の力を合わせて共に成長していきたいと思います。

ねっとわーく

新潟県弁護士会 こどもの権利委員会



新潟県内の弁護士約40名で構成され、少年事件の付添人選任率の向上やスキルアップに関する活動、子どもの人権の観点から問題のある事例(学校におけるいじめ等)について調査・勧告を行う活動を行っています。

また、無料相談窓口である「子どものなやみごと相談」を開設し、子どもが直面する様々な問題について、大人・子ども問わず相談を受けています(詳細はチラシのとおり)。さらに、虐待や非行等のために家に帰ることのできない子どもたちのためのシェルターである「子どもシェルターぽると」と連携し、入所を必要とする子ども(10代後半の女子が対象)へシェルターを紹介し、入所後の援助活動に携わっています。



掲 示 板

◆本の紹介

① 社会福祉に関する小冊子

～社会福祉の専門のことを通して世に問う～
今、医療福祉や介護はもはや他人事でない身近な問題です。法律や制度を作るだけではなかなか解決につながらない中で、私たちはどのような社会を目指せば良いのかを日常の暮らしに置き換えて考えるきっかけ、道しるべになる一冊。

新潟医療福祉大学社会福祉学部ブックレット

A5版 頒価600円

創刊号「ソーシャルケースワークとは何か」

(第2号は3月発行予定)

問い合わせ：新潟医療福祉大学

025(257)4508

② 小千谷市公民館創設70年記念誌(仮)

戦後、日本で初めて公民館が設立された小千谷市。内容には創設時にかかわったなんと102歳の方からも寄稿されています。社会教育の弱体化が危惧されている中で、小千谷市は今まで培った社会教育力を生かして動き出しました。小千谷市の社会教育の今までと現在を知り、未来を展望する一冊。

小千谷市教育委員会編(3月末発行予定)

問い合わせ：小千谷市中央公民館

0258(82)9111

新潟県生涯学習協会 インフォメーション

●**会員募集中です!** つながりたい方、地域づくりに興味のある方、県内の情報が欲しい方など是非会員になってくださ～い。お待ちしております。

☎ 025-266-1120 事務局へ♪

調査・広報委員長のつぶやき

糸魚川大火の被災者の皆様にお見舞い申しあげます。私は糸魚川高校卒。通学路の途中にあった火元のラーメン店は地元でも評判のラーメン店でした。他にも江戸時代創業の酒蔵や割烹店など由緒ある店舗が多数消失しました。なかでも、加賀の井酒造は加賀藩の糸魚川本陣が置かれていたところで、前田家から「加賀」の字の使用を許されていました。全国品評会で金賞を受賞したこともある新潟県最古の酒蔵です。全焼してしまって本当に残念です。親戚や知人の家もいっぱい焼けてしまいました。復興を祈っています。(田原)